東京防災隣組に「境南地域防災懇談会」が選ばれました

地域防災力向上モデル事業には吉祥寺東町地区

TOPICS 03

東京都では、防災力を高める地域活動を奨励するために「東京防災隣組認定」という制度を設けました。4月15日に行われた第1回の認定式では36団体が選出され、武蔵野市からは「境南地域防災懇談会」が選ばれました。

この懇談会の主な活動は、大きな災害が起きたときに必要となる避難所の設置と自主運営の訓練です。活動のきっかけは、平成7年の阪神・淡路大震災でした。

懇談会の代表を務めている大矢照男さんは、当時、武蔵野市消防団長を務めており、現地での災害ボランティアに参加しながら、避難所の運営がいかに難しいかを目の当たりにしました。市に戻った大矢さんは、避難所に指定されている市立境南小学校をはじめ、地域の団体に呼びかけて、万が一に備えるための防災訓練を企画していきました。平成11年には、22団体が参加する自主防災組織を結成。以来、実際に避難所を設営する訓練を毎年夏に行っています。訓練では避難者の受け付けや炊き出し、小学校の児童や保護者が参加しての宿泊訓練などを行います。

継続的に訓練を実施していると課題も浮き彫りになります。とりわけ高齢者の対策が大きな問題です。そこで、平成23年度の訓練では地域内5カ所の公園に緊急集合場所を設け、住民の安否確認を行う訓練も新たに始めました。大矢さんは「災害はいつ起こるか分かりません。でも、日ごろから訓練をしていれば、きっと役立つはずです」と語っています。

また、東京都では「地域防災力向上モデル事業」も開始。これは市区町村、東京消防庁や関係機関が連携し、地域の防災活動を活性化させていくものです。平成24年度は4地区が選定され、武蔵野市から吉祥寺東町地区が選ばれました。東部防災会が主体となり、学識経験者のアドバイスも受けながら、避難所運営組織の立ち上げを行っていきます。

昨年の活動の様子。毎年、夏休みの時期に小学校で行われる訓練

亜細亜大学　硬式野球部

東都大学野球リーグで秋春連覇!

亜細亜大学（境5-24-10）の硬式野球部が、東都大学野球リーグの平成24年春季リーグ戦で優勝を決めました。5月16日に神宮球場で行われた中央大学との3回戦に1対0で勝利。この時点で青山学院大学との対戦を残したままでしたが、優勝が確定。昨年の秋季リーグに続く2季連続、19度目のリーグ制覇を達成しました。この試合でも、エース投手であり、主将の東濱巨選手（経営学部4年生）の好投が光り、中央大学打線を完封しました。東濱選手は、今季5勝（通算31勝目）をマーク、リーグ通算の完封記録も更新（21回）しました。

※6月18日、全日本大学野球選手権大会でも、東都代表として出場した亜細亜大学は準優勝をおさめました。